



新宿駅を一周するデモでG20 反対を訴える参加者（6月25日）

6・25 東京

G20大阪サミットNO!

全国の「戦旗」読者の皆さん 闘う仲間の皆さん
六月二一日、アジア共同行動日本連の招聘で福岡空港に降り立った韓国の
闘う仲間が、福岡入管から不正にも入国を拒否され、全国各地での六月AW
C集会と、大阪G20粉碎闘争への参加を阻みました。アジア共同行動福岡
の仲間は翌日にかけて、断固として空港入管に対する抗議行動に起ちました
が、それに恐怖した国家権力はいきなりの「出国命令」を発し、韓国の仲間
は私たちとの合流を果たせないまま出国を余儀なくされました。しかし、帰
国後直ちに記者会見を開くとともに、抗議声明を発し、また、一連の六月AW
C集会も、一部予定変更を余儀なくされながらも断固として取り組まれ、勝
利しました。また、「G20大阪NO！ アクションウィーク実行委員会」呼び
かけの大坂G20粉碎の闘いも六月二八日、天保山公園から出発して会場のイ
ソテックス大阪へと肉薄するデモ行進を勝利的にやり切りました。
安倍は大阪G20を「成功」と言い切り、その余勢をかって七月の参院選に
臨もうとしています。しかしながら、米帝トランプのしかけた対中貿易戦争
の影響で、日帝の経済指標も軒並み悪化しており、もはや「アベノミクス」は
空騒ぎにしか過ぎなくなっています。
私たちは米帝トランプの、イランや中国への戦争攻撃とそれに追随するこ
とをしかしない安倍への批判を強め、安倍の九条改憲攻撃を、心ある皆さん
とともに闘つて粉碎しなければなりません。

米帝トランプの挑発許すな

米帝はイラン戦争重圧をやめろ 制裁外交弾劾！安倍政権打倒

思いは、無理からぬもの
がありましょう。
しかしながら皆さん、
トランプという男は就任
以来一事が万事この調子
です。主にSNSで世間
に対する「不意打ち」を毫
らわし、驚かせ、劇的な結
果を狙うという手法を繰
り返してきました。その
全ては、大統領として重
選を果たすためだけのも
のであり、トランプににつ
いては戦争であろうと平
和であろうと、自身の政
治的野望、栄達のために
弄ぶものに過ぎないので
す。

の
で言うなら、今般の緊迫した政治情勢をもたらしたのはまさに戦争です。イランと、米英独仏中ロとEUとの間で、二〇一五年に成立した「イラン核合意」から的一的な離脱を宣言し、経済制裁を再開したのが昨年の五月。他帝もそれを批判し、また国際原子力機関（IAEA）も「イラン側に合意違反はない」とする中で、トランプ政権は今年五月には空母エイブラハム・リンカーンを差し向けるなどの軍事挑発を強化し続けていまし

たまさに同時期に、オマーン湾で何者かの攻撃を受けた二隻のタンカーのうち、一隻はパナマ船籍ながら日本企業が運行する船でした。安倍はすかさず「日本の船が攻撃を受けた。決して許せない」と憲書き、トランプもイランがやったことと名指しで非難。六月二一日には「イランへの攻撃命令を出したが攻撃の二〇分前に止めた」とツイッターでつぶやいてみせました。

イージス・アショア配備撤回せよ
辺野古新基地建設粉碎！

本紙発行日に投開票を迎える参院選の秋田、山口両選挙区において、安倍政権を追い詰める焦点と化しているのがイージス・アシヨアの配備問題です。政権が配備を强行しようとしている二県で、防衛省による住民への説明会のテタラメぶりが次々に明らかになつてゐるからです。ことに、新屋地区が「適地」であると、他の地区と照合しながら説明するための資料の数値データはテタラメで、最初から他地区を検討などしてはおらず、「新屋ありき」でござ進めたことが明らか

あり、アメリカの防衛のために両地域の住民を危険に晒すものに他なりません。それを血税を投じて購入するなど、許されることはございません。地域住民と連帯した闘いで、粉碎しましょう。

七四回目となる六月二三日、沖縄の「慰靈の日」。玉城デニー知事はウチナーラグチと英語を交えて、就任後初の平和宣言を行いました。知事選と「県民投票」で示された沖縄の民意を強調し、辺野古新基地建設の撤回を訴えました。しかしそれに対し出席した安倍は、恥知らずにも、辺野古の辺の字も口にすることなく「沖縄に寄り添う」と中身も何もない言葉を吐き捨ててみせたのです。会場から怒号が飛んだのは当然のことでした。

日本「本土」と沖縄の戦後の歴史には大きな違いがありますが、安倍政権の下、住民と自治体に有無をいわせぬ基地機能の強化、戦争国家化には共通点が多く見出せます。

大阪G20 現代帝国主義の惨状

日帝 安倍政権は六月二十一日、大阪に高透過路基盤 小中高林伊松
まで行う戒厳態勢を敷いた。

安倍晋三は会議の冒頭で「自由貿易やイノベーションなどを通じ、世界経済を力強く牽引していく」と語り、閉幕後の記者会見では「意見対立ではなく、共通点に光を当てた」と「成果」を誇るうとした。二〇カ国・地域は、安倍の言うような「共通点」で合意したのだつか?

○八年恐慌への対応、そして、米トランプ政権の登場、英国の欧州連合離脱という事態の中で、新自由主義グローバリゼーションの破綻は明確になりました。帝国主義はその世界支配について一定の協調をなすことすら困難になってしまった。大阪G20で露呈したことは、二〇カ国・地域という多国間の表層での「合意」すら困難になっているということだ。安倍は、最初から「意見対立」を回避した。説得できないトランプとの議論は成立しなかった。政治・経済・軍事の力をあからさまにした一国間、各国間の対立が鮮明になったサミットだった。

G20大阪サミットで露呈した対立と混迷

日本政府がG20参加国・地域を調整してまとめた首脳宣言は、世界経済に関して「一九年後半から二〇年にかけて徐々に上向く見込み」としながら、「下方リスク」として「とにかく貿易と地政学を保つていく」とした。

的な摩擦が増している」と評した。米トランプ政権に最大限の配慮を払う安倍政権は、トランプ政権が仕掛けた米中貿易戦争をこのような曖昧な言葉で語るのだ。そして、この状況に対する方策をの論争を避け、「自由貿易の促進」という言葉を原案としていた。しかし、その言葉から「反保護主義」と闘う」ということが二〇カ国・地域の中の共通認識であり、首脳宣言に明記してきた。

トランプが米大統領に就任してG20に参加するようになって、反保護主義の合意は困難になつた。今回、安倍政権は最初から「反保護主義」についての論争を避け、「自由貿易の促進」という言葉を原案としていた。しかし、その言葉から「共通点」と確認することができなかつた。



G20 各国 · 地域首脑

一九力國について
「パリ協定の參加國は各
国事情に配慮しつつ、そ
れぞれの責任を果たすこ
とを再確認する」。一方
で、「米国は自國の不利益
になるとの理由でパリ協
定からの離脱決定を再び
強調する」とした後に、次
のような言葉が付言され
た。「一方、米国は先進技
術の適用により、温暖化
ガスの排出削減に取り組
む」。これは妥協ですらな
い。現状を書き連ねただ
けだ。しかも、パリ協定を
勝手に離脱したトランプ
政權が一九力國・地域よ



G20大阪サミットでにらみ合うトランプ米大統領と中国の習国家主席

大阪G20 現代帝国主義の惨状

香川 空

りもすぐれた技術革新「温暖化対策」を進めているかのような誤解を極的につくりだす作為はたらいている。

今回の首脳宣言にはプラスチックごみ海洋棄の対策が書き込まれた。安倍は「大阪ブルー オーシャン・ビジョン」と銘打った。しかし、これは「二〇五〇年までに」洋投棄をゼロにするとうものである。逆に言えば、三〇年という長期わたくちて放置する意図と疑わざるえない。

この無内容で、米ト
ンプ政権に最大限おも
ったG20首脳宣言を誰が
注目したであろうか。…
界中の耳目は、米中首
会談をはじめとする大
間の首脳会談の行方に注
じていた。

で積がれ、投げられにかえられ、易戦争の両当事者は一二月のG20ブエノスアイレス首脳会議以来直後に行なわれた。米中は昨年來、関税を積み重ね、追加関税を華為技術（アーヴェイ）への輸出制にまで着手して貿易争を激化させてきた。中首脳はこの日の会で、双方が準備していく第四彈の関税発動を一先送りし、貿易協議を開させることで合意した。世界各國のブルジアジーは、世界経済の危機が一旦遠のいたとの解をもって、この日の中首脳会談を捉えた。

トランプは自分で米通商関係の危機を作りし、エスカレートさせおいて、まるで自分がこの危機を収束させたかのように演じてみせた。トランプのおかげで、国安倍の記者会見記事新聞の隅に追いやられ安倍の面目は潰れた。

その後訪韓したトランプは、G20の間にほんのものに評価はせざるの「成果」だけを誇った。その後記者会見で、G20の間にはかしていたとおり、日午後、文在寅(ムン・イン)大統領とともに、門店(パンムンジョム)赴き、金正恩(キム・ジョン・ウン)国務委員長と共に、朝会談を行なった。ソウル規約(以下、共和国)側に再会し、踏み入れた上で、韓米ソノニアリスは金正恩とともに、鮮民主主義人民共和国施設で一時間近くのペリオドを行なった。米朝は、正恩に対し「ホワイトハウスに招待する」と語った。

示し、自20そ
四人の指名争いに向けた
最初の討論会が始まって
いた。「どちらに投票する
か」という類の世論調査
では、トランプはバイデン
にもサンダースにも負
けている状況だった。大統領選を意識するトラン
プにとって、オバマがや
つていないこと、民主
党候補の誰よりも先に、
何かやるということがと
ても重要だった。

トランプを迎えた
金正恩の言葉「史上初め
て、私たちの地に足を踏
み入れた大統領だ。並々
ならぬ勇断だ」は、権力に
しがみつくトランプの野
心を讃えるものだった。

米・韓・中・朝、それぞ
れの首脳の思惑がはたら
いているが、重要なこと
は朝鮮半島和平の流れが
再び大きく動き出したこ
とだ。これは決してトラン
プの成果などではな
い。韓国民衆の「もうそく
革命」が生み出した歴史
的大道だ。南・北・在外
の朝鮮人民が希求する朝
鮮半島一東アジアの平和
を必ず実現させなくては
ならない。

この米朝首脳会談—朝鮮半島和平の流れを認め、促進してきた。韓国との首脳会談を拒絶し、朝鮮半島問題に関わる根拠すら失っていた安倍政権は完全に蚊帳の外に置かれていた。外相河野は三〇日夜に、米国務長官ポンペオから電話で説明を受けたのだった。

G 20の議論については何も語ることはなく、自らの「外交成果」に執心するトランプが本心で意識していたことは何だったか。

米国ではG 20の前日から、来年の米大統領選に向けた民主党の候補者二

手をかけたトランプ政権

米帝一トランプ政権はG20サミットの直前に、イラン軍事攻撃に手をかけた。

六月二〇日、イラン革命防衛隊は領空侵犯した米軍無人偵察機グローバルホーク(GH)を撃墜したことを見発表した。米中央軍は、GHが公海上空で撃墜されたと主張した。トランプ自身は「イランはとても大きな間違いを犯した」と非難のつぶ

